

瑞慈医療集団（リッチヘルスケアグループ）（1/3）

（ア）リッチヘルスケアグループ概要

- ・ リッチヘルスケアグループは2002年に開業し、総合病院1軒、産婦人科病院3軒、健診センター44軒、診療所8軒を経営しており、南通市ではMCSと介護施設を運営、業務範囲は医療産業全般に渡る。2016年10月に香港証券取引所に上場し、中国医療業界において重要な役割を果たしている。拠点は上海市、南通市、常州市、無錫市。
- ・ 同グループとMCSは南通市で護理院（医療保険が使える介護施設）を運営している（南通瑞慈美邸养老护理院）。（<https://rich-healthcare.com/site/about>参照）
- ・ 8月のMCSによる同グループへの事前ヒアリングにおいて、同グループは健診センター内に認知症早期発見拠点を構築することには非常に積極的だったため、医師に対しMRI検査、血液検査による認知症早期発見を提案した。

瑞慈医療集団（リッチヘルスケアグループ）（2/3）

（イ）医師のコメントと情報提供

・技術自体は非常に良いが、AIによる分析結果を患者に「有償で」「直接」レポートとして渡すことは中国では人工知能による医療診断補助と見なされ、当該AIは医療機器三類（最高分類）に属することになる。医療機器三類は人命に関わるため最も厳しい審査が求められる。リスク診断であっても、患者に対して報告し、何らかの対応が必要になる行為なので三類になる。

・分析自体を有償にするには医療機器三類の認証が必要で、そのためには現地中国人の脳を新たに撮像し、それを解析する必要があるため膨大な時間を要する。

・中国においては脳画像以外でもAI分析で三類の認証を取った例はない。

・研究目的として無償でBAADを医師が使用し、検査・診断・介入までパッケージにして健診料金に上乗せする方法は実現可能性がある。ただし、研究としてBAADを使用するため、ERISAに対して検査1件当たりいくらという分析料を支払うことはできない。

・医療データは国の安全にかかわるデータであるため、医療データの国外移転は厳禁とされている。脳画像以外の医療データも国外移転は許されていない。

（ウ）リッチヘルスケアグループとの取組可能性及び他の可能性の検討
リッチヘルスケアグループとの取組として、「検査・診断・介入パッケージ」と「富裕層向け健診」の2点を検討した。

瑞慈医療集団（リッチヘルスケアグループ）（3/3）

a. 検査・診断・介入のパッケージ

上述の現地調査により、検査・診断・介入をパッケージにした中国の病院への導入を検討することにした。検査・診断・介入パッケージの導入には、次の2点が条件となることが判明した。

- ・ 国外への医療データ移転は中国では禁止されているため、中国国内で医療データ分析を完結させる。
- ・ 中国で医療機器の認証を受けるには、中国人の医療データで一から分析し直す必要があり、これには3年以上を要する。これを避けるため、研究目的として無償で医療データを解析することで医療機器の対象外とする。この場合、リッチヘルスケアグループからの支払いは、解析費ではなく技術指導料などのロイヤリティという名目になる。

b. aの代替案としての富裕層向け健診

上記パッケージの代替案として、富裕層向けの健診にMRI検査及び血液検査を組み入れることも検討していく。同グループの健診センターでは、3,000元以上/回の健診受診者をVIPと呼んでいるが、健診でこの金額を負担できる人は中国では富裕層に属する。同グループではVIP向けに2019年末にCEOヘルスクラブ（お試し健診）を始める計画があり、CEOヘルスクラブを気に入った方には、10,000元/回のフルメニュー健診を受けられる会員制への移行を勧める予定である。現地ヒアリングにおいて、このフルメニュー健診の中にMRI検査及び血液検査を無料で組み入れる事が可能であることをリッチヘルスケアグループに確認した。CEOヘルスクラブ申込人数は20名/日、実施期間は未定。同グループの支払いはa.と同様